

令和5年
(2023年)
10月

ゆりー



米原区の人口及び世帯数
令和5年9月末現在
戸数 1,150 世帯
人口 2,770人
男 1,370人 女 1,400人

今年から申し込み制ですよ～

区の行事予定

10月

- 3日(火) ミニ・デイサービス
- 13日(金) 敬老会実行委員会
- 19日(木) 千尋会定例会
- 29日(日) 米原区敬老会

11月

- 7日(火) ミニ・デイサービス
- 10日(金) 審議委員会
- 16日(木) 千尋会定例会

今月の徴収金

区費	1,000
防犯灯負担金	150
敬老会費	1,000
合計	2,150円

ありがとうございます

- ・3班の福地心一様(浄福寺)より、飲み物とお菓子の寄贈がございました。
- ・2班のチャーチ様より、ご寄付がございました。

第36回米原区敬老会

日時: 10月29日(日) 午後3時～午後5時
場所: 米原公民館

* 2時半に写真撮影です。80歳以上の自治会員は、遅くとも2時20分ごろまでには公民館にお越しください。

敬老会への参加を希望される方は、お手数ですが10月20(金)までに公民館に電話などでご連絡下さい。(☎973-3434)

敬老会の会費徴収のご協力について

米原区では、自治会の個々の会員のご協力で敬老会を開催しております。会員の皆様におかれましては出費多端な折り、誠に恐縮に存じますが米原区のご長寿の方々を敬愛・祝福し、更なる長寿を祈念するための敬老会の意義をくみ取っていただき、下記のとおり会員の皆様のご協力をお願い致します。

- ・会費は各世帯1,000円です(一人参加の場合)。
- ・一世帯二人以上の参加希望の場合は、一人につき500円追加となります。
- ・80歳以上の方だけの世帯は、会費の納入はございません。
- ・納入方法は公民館に足を運んでいただくか、ご連絡いただければご自宅まで伺います。

※区費を年払いされている方々については、敬老会参加費はすでに納入済みですので、追加のお支払いはございません。

千尋会からのお知らせ

- 1 歳末助け合いチャリティー・市老連造成GG大会への参加募集
期日: 令和5年11月8日(水) 場所: 具志川総合グラウンド場 参加料: 一人1,000円 締切り: 令和5年10月26日(木) 参加協力できる方は、石川(090-7585-6408)か金城(090-7389-0933)まで連絡下さい。
- 2 千尋会行事日程
(1) グラウンドゴルフ大会 期日: 令和5年11月22日(水) 場所: どんぐり公園
(2) ピクニック 期日: 令和5年12月26日(火)(予定) 場所: 未定
ピクニックの日程が、貸し切りバス手配の都合で年末になりました。そのために行事日程も再変更になりました。



上の写真、何に見えますか? 実はこれ、赤道小学校の3年生80余人と3人の担任の先生がどんぐりフレンドパークの芝刈り作業を手伝ってくれた時の写真なのです。9月15日、毎月恒例の芝刈り作業をいつもの米原のメンバーでやっていたところ、赤帽の小さな助っ人達が、手に手にホウキや熊手などをにぎり、隊列を組んで公園に向かってくるではないか! 「やや、これはなにごとか?」と引率の先生に聞いてみると、「いつもお世話になっている公園を皆で掃除してあげたい」という声が子供達から上がり、その日の行動につながったと云う。赤小3年生の皆さんのすごいパワーであっという間に公園がきれいになりました。ありがとうございました。そして、お疲れさまでした。また、次もオジサンたちを楽にしてくださいネ～!

九月の審議委員会の審議事項(九月八日(金)開催)
敬老会について
今回の敬老会は初めての試みとして、区民とプロの出し物により構成する。また、今回の余興の在り方に対するアンケートを取り、来年以降の敬老会の開催方法に参考にするとよいのではとの意見があったことから、後日アンケート調査も実施する。
申込制について
参加者の数をあらかじめ把握することとで余剰弁当などへの「コスト軽減」につなげたい。初めての試みなので混乱はあると思うが、今回はこの方法に振り実施する。「電話等での申し込み方法は、参加者数を減少させるので」との意見もあることから、申し込み状況が遅れ気味の場合、参加を促す働きかけを事務局が行う。

へー、そうだったのか！（パート64）—健康長寿が一番—

3班の宜野座静子様は、昭和11年9月25日、男3人、女2人の長女として北中城村安谷屋に生まれ、喜舎場小学校、中学校にて学ぶ。15~16歳の頃から、米軍瑞慶覧基地内でメイドとして4~5年働いた。掃除、洗濯、子守が主な仕事だったが、思いのほかナンジワザだったようだ。



そんな折、同じ軍で溶接工として働いていた嗣英さんと出会い、結婚。「溶接」が取り持つ縁で、切っても切れない関係が現在まで続いているとお見受けした。ソーミンイリチャーが大好きな静子さんは、前川守賢のファンで「かなさんどー」が特に気に入り。健康の秘訣は、以前はウォーキングだったようだが、足腰を痛めた現在は8時就寝の4時起床をベースに腹8分の食事を常とし、猫1匹と寝る。中々ユニークな健康法だ。

区の老人会と一緒に県内の各地を訪ねたのが思い出だと言う静子さんは、旦那さんとチョットしたいさかいがあるとうっぴん晴らしにタクシーでサンエーまで行き、ウィンドーショッピングを楽しむと云う。「ウィンドー（売ります）」と云われても「コーランドー（買いません）」と云って帰ってくる静子さんは、「楽しい人生が待っているといいなあ」と締めてくれた。



7班の知念郁子様は、昭和11年5月10日生まれ。旧久志村二見が故郷で小学校は瀬嵩（せたけ）、中学校は汀間（ていま）に学んだと云う。父親は木炭づくりで生計を立てていたが、後に三線の野村流の師匠になる程に芸に身を投じたようだ。男3人、女4人、孫は約50人程、やしやごは1人で、余りにもかたよっているため郁子さんでも、誰が誰の子どもなのか直ぐには分からないと云う。

郁子さんは、沖縄の伝統行事でのしきたりにも決して手を抜かない。ウンケーも松脂で火を灯し、ムーチャー、中味汁、フチャギ、仏壇に供える赤紙なども自分で作るという。このような熱意が子や孫に通じているのであろう、盆や正月には50~60人が大集合し大賑わいだ。仲田幸子が大好きで、彼女の冗談や滑稽さには腹を抱えると云う。何かあると「短気は損気、気長に構えなさい」が胸に浮かんでくるという郁子さん。物事に動じない性格で「（まくとっそーけー）なんくるないさ」と言っているようで小柄な体から貫禄と人間の深みが伝わって来た。

今後の人生、どのように送りたいかと聞いてみると、「できるだけ健康で、子供たちに迷惑をかけないようにしたい。」と応じてくれた。

1班の小谷静子様は、昭和11年8月9日、米原に生を受ける。7人兄妹の3番目で次女。若い頃はエイサーにも興じたようだが、何と



言ってもカラオケが大好き。石原裕次郎や美空ひばりがお気に入り、特に二葉百合子の「岸壁の母」は、セリフも含めて完璧に歌うことができる、と弟の良教さんは語る。静子さんは、若い頃に体調を崩し、今は病院で長い療養生活（人生の約半分ほど）を送っている。

コロナ前は、毎月、戸外の空気を吸うため病院から外出し、良教さんらとドライブをしたり食事に行ったり、カラオケで楽しい時間を過ごしたりした。しかし、今の状況では、それらのことがまったく叶わないと無念そうに語る良教さん。

静子さんは、若い頃は働き者で、洋裁が上手だったという。沖縄そばが好きな静子さん。ハーモニカを大事にし、いつもニコニコしている。深くものを考えないようにすることが、今の困難な世の中を生き抜いていく上で最良な方法だということを見せてくれているようだ、と良教さん。

コロナにもかかったが、それも克服したお姉さん。そのような「姉が存在することを周囲の人にも知って欲しい」と良教さんはしっかりと口調で語った。



5班の友寄キヨ子様は、昭和11年10月10日、宜野湾市佐真下に生を受ける。4姉妹の2番目のキヨ子様は、17~24歳まで嘉手納で軍のハウスメイ

ドを経験しており、24歳の時、知人の紹介で知り合った英仁さんと結婚。こども3人、孫4人、ひ孫3人に恵まれた。野菜作りやガーデニングを趣味とするキヨ子さん。魚類やお米を好み、尊敬する人は実母や姉だと云う。何かあると信条としている「なんくるないさー」がいつもスタンバイしていて、案の定、何とかなるようである。健康の秘訣は、好き嫌いなく食べる事。直近で一番うれしく思ったことは、今年の9月後半にひ孫の男の子が生まれたことだと云うキヨ子さんにとって、その孫やひ孫が増えていくことが何よりの楽しみと云えそう。子どもや孫の健康や幸せを第一に置き、自分の健康はその次だと云う母性豊かなキヨ子さんなのだ。

小さい頃戦争を経験しているため、いつまでも平和で争いごとのない世の中の到来を切に願っているとのこと。そして、健康で成長していく孫、ひ孫を見守っていくことが今後の何よりの楽しみ、と締めてくれた。



1班の小谷良之様は、昭和11年11月15日、2人兄弟の長男として大宜味村喜如嘉に生まれる。小学1年生の1学期を終えた時、戦争疎開で大阪に移住を余儀なくされた良之さんは、青年時代をずっと大阪で暮らす。29歳の時、大阪のとある病院のお医者さんの紹介により、大分県出身の綾子さんを一生の伴侶とする。二人の間には、男2人、女1人、孫8人ができ、繁盛への橋渡しはばっちりできている感。庭いじりやカラオケが趣味の良之さんは、外見からも健康そのものといった

ダンディーぶりで、両親と作曲家の古関裕二を尊敬し、中国の仏教書「碧巖録（へきがんろく）」に書かれているという「日々是好日（にちにちこれこうにち、又はこうじつ）」を好きな言葉として示してくれた。「毎日毎日が実に佳い日である」ことを常に願いながら、健康を維持するためには「好き嫌いを出来るだけ無くし、体をこまめに動かす」ことだという。「分別のない人に接する時」が一番苦手だと云い「日々是好日」を胸に「戦争の無い世の中であって欲しい」と語っていた。

最後に控えしは、カジマヤーを迎える2班の島袋太郎様。



1927年11月23日、フィリピン・パンガシナン州で生まれた太郎さんは、フィリピン名をアルフレイド・M・バルセルスと称し、22歳の時米国の兵隊としてグワムに。その後、行き先の選択肢から沖縄を選び、軍で大工として働いた。

太郎さんは、ウチナー女性島袋光子さんと結婚し男2人、女5人を儲け、さらに孫20人、ひ孫12人の大家族を自らの大工術を駆使し、コツコツと作り上げていった。

当時タガログ語、英語、日本語、うちなー口と4種の言語を操る大工は、非常に珍しい存在であったはずで、今なら「粋な大工さん」として、メジャーのテレビ局が太郎さんを追っかけていたかも知れない。（ここからは、日本語は話せるが読むのはひらがなだけと云う太郎さんのために、英語でも紹介してみようと思う。）

After having worked as a carpenter on base for many years, Taro became a victim of the dust of asbestos and greatly suffered from it. But as time went by, medicine remarkably developed, which, as a result, relieved Taro from his lung pains. Before he reached 60, he retired from his carpentry. But alas, he had lost his beloved wife before his retirement.

Taro, according to Midori, his daughter, was a really good cook. When Obon or Oshogatsu came around, he willingly occupied the kitchen and prepared great deal of Nakami-jiru soup and other good foods, and of course, roasted whole chickens at the Christmas time. Taro also had a green thumb, especially for orchids. When any kinds of vegetation, which required strenuous efforts to grow, were brought to him, he got excited and cherished them to make them fully bloom.

Taro loves sweets, but after having lived in Okinawa for over 70 years, he has never tried Sashimi, not even a bite. Until during eighties, he lied down on the tatami-mat and did some dumbbell exercises every day. After all, he loves his family and his family supports him in every way.

—へー、そうだったんだ！—
—Oh, that is what it really was!—